

公開天文台白書2006における三瓶自然館天体観察会の位置付け

竹内 幹 歳*

Rating of Sahimel Star Parties in Japan

Mikimasa Takeuchi

1. はじめに

公開天文台白書2006 (以下、「白書」と記す) は日本公開天文台協会 (JAPOS) が、公開を目的として設置された据え付け型及び移動型望遠鏡を有する施設について、広く調査し作成したものである。この調査に対しては、三瓶自然館 (以下、「当館」と記す) も回答しており、白書のデータと比較することで当館の天体観察会の全国的な位置付けがわかった。

2. 白書に見る当館天体観察会の特徴

当館の天体観察会は一般の参加者が天体望遠鏡などを使って天体を観望する会で、公開天文台では一般的に観望会と呼ばれることが多く、白書でも観望会と表現されている。

当館の天体観察会で使用している天体望遠鏡のうち最大のもは口径60cmの反射望遠鏡で、白書からはそれが口径で60位程度であることがわかる (図1)。また、当館の天体観察会の観望料金は、大人が300円、小学生、中学生および高校生が100円であるが、全体の4割にあたる観望会を有料とする施設の中では標準的な設定といえる (図2)。これらは白書において当館の天体観察会が平凡といえる点であるが、以下には特色のある点を述べる。

当館の天体観察会は、観望者を随時受け入れる形態ではなく、基本的には一晩に45分間のものを2回、開始時刻を定めて実施している。白書によれば、当館のように時間を区切って観望会を実施している施設は241施設中の45%と多いが、その中で一晩に2回の観望会を実施しているのは7施設のみであり、当館はそれに含まれる。一晩に2.5回以上観望会を実施して

いるのは12ないし13施設ある。

白書において当館の施設種別は「博物館・科学館」であり、そのことに着目すると次のことがわかる。白書によれば、公開天文台として調査対象になった412施設中「博物館・科学館」は71施設で、そのうち約8割が調査に対し回答している。回答のあった「博物館・科学館」の2005 (平成17) 年度の総入館数は

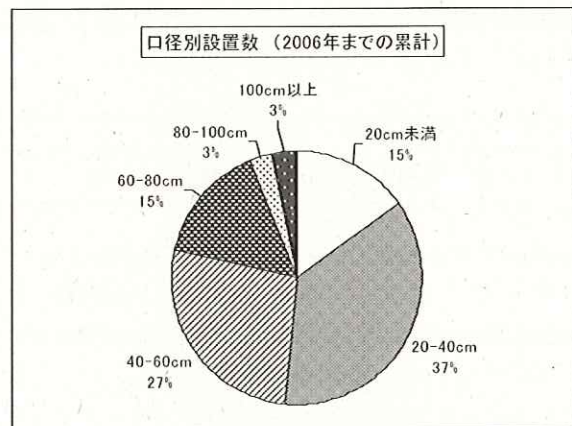


図1 口径別の設置割合 (294 台中)
公開天文台白書 2006

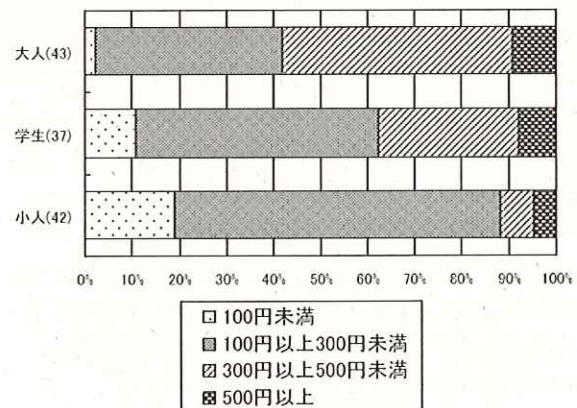


図2 夜間観望会の料金
公開天文台白書 2006

* 島根県立三瓶自然館, 〒694-0003 島根県大田市三瓶町多根 1121-8

The Shimane Nature Museum of Mt. Sanbe (Sahimel), 1121-8, Tane, Sanbe-cho, Ohda-shi, Shimane Prefecture

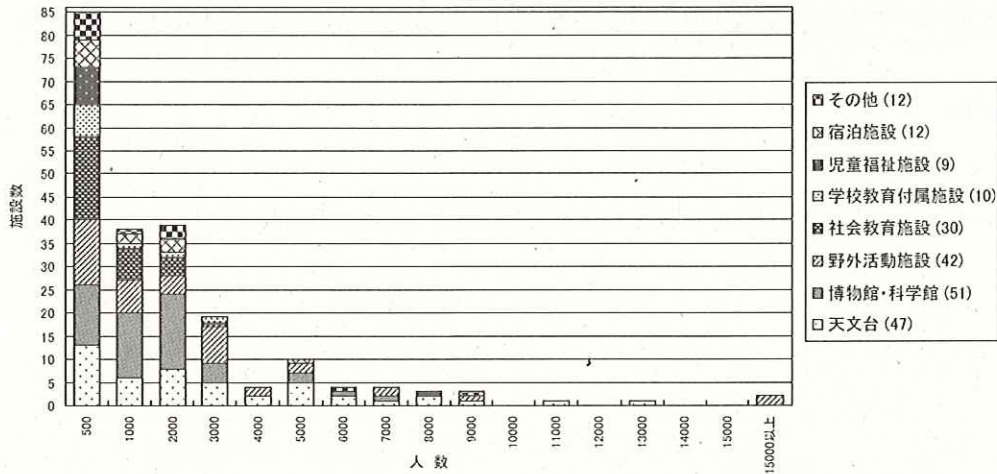


図3 夜間観望会の参加者数の度数分布 公開天文台白書 2006

8,603,924人である。同じく夜間観望会の総参加者数は65,735人で、これは総入館者数の0.76%にあたる。当館の2005年度の入館者数は附属施設の三瓶小豆原埋没林公園も含め187,608人であったのに対し、天体観望会参加者数は6,616人で、その割合は3.5%であり、「博物館・科学館」の中では非常に高いといえる。

表1 三瓶自然館天体観望会の年度ごとの参加者数

年度	2002	2003	2004	2005	2006
参加者数(人)	2,541	6,519	6,257	6,616	8,018

3. 天体観望会参加者数について

2005年度の当館の天体観望会の参加者数は6,616人であったと述べた。白書には施設ごとの夜間観望会参加者数は公表されていないが、参加者数の度数分布が掲載されている(図3)。それによれば、当館の天体観望会の参加者数は全国で15から18位の間であることがわかる。また、「博物館・科学館」の中では2位である。

白書では、回答の無かった施設も含め、公開天文台における夜間観望会の年間参加者数は548,730人、そのうち「博物館・科学館」における参加者数は85,735人と見積もられている。それに従うと、当館の天体観望会参加者数は公開天文台全体の1.2%、「博物館・科学館」の7.7%となる。

当館の天体観望会参加者数の推移は表1のとおりであり、参加者が8,000人以上の施設は10施設であることから、度数分布の変化があまりないとすれば、2006(平成18)年度以降は当館が上位10施設に入っている可能性もある。

当館は博物館施設であるが、天体観望会に参加する学校団体は近隣の「国立三瓶青少年交流の家」に宿泊する場合が多く、その点では当該施設の種別である「野外活動施設」の性格も併せ持つ。図3によれば、参加者数では「野外活動施設」は当館より上位に5施設ある。

4. ま と め

当館の天体観望会について、公開天文台白書2006から次のことがわかった。

- (1)当館の天体望遠鏡の口径と、天体観望会の参加料金はおよそ標準的である。
- (2)当館同様に一晚に2回の観望会を実施している施設は少数である。
- (3)公開天文台の機能を持つ博物館・科学館の中で、当館は入館者数に対する天体観望会参加者数の割合が高い。
- (4)2005年度の当館の天体観望会の参加者数は公開天文台全体の中で15から18位の間であり、そのうち博物館・科学館の中では2位である。
- (5)2005年度の当館の天体観望会の参加者数は、公開天文台全体の観望会参加者数の1.2%、博物館・科学館のその7.7%にあたるということが推測される。

このように当館の天体観望会は全国でも比較的参加者が多い。参加者数だけが天体観望会を評価するものではないが、利用者からの支持の表れの一つであり、今後も参加者数の維持もしくは増加に努めたい。

参 考 文 献

日本公開天文台協会公開天文台白書編集委員会編(2007)公開天文台白書2006. 兵庫県立西はりま天文台公園.